

研究主題 「主体的・対話的に学び深める児童の育成」

～自分の思いや考えを伝え合う活動（音声言語）の工夫を通して～

低学年分科会

〈单元名〉「あったらいいな、こんなもの」
〈教材名〉2年 あいての考えを引き出すしつもんをしよう

効果的だった点（◎）と課題を感じた点（△）

◎【ペアによる対話活動】

- ・交流のモデル動画の活用によって、交流のイメージをもって取り組むことができた。
- ・交流の手順の掲示（文字化）があり、児童が交流時に何度も確認することができた。

△交流が2回あったが、何のために交流しているのかを自覚していない状況があり、質の高まりが感じられなかった。

→質の高い伝え合いにするには、よい交流をしているペアを紹介し、交流するときの視点（質問、感想等）を全体で確認することが大切である。



〈单元名〉本は友達「私と本」
〈教材名〉6年「星空を届けたい」を読んで、サムネイルを完成させよう

研究主任による提案授業

効果的だった点（◎）と課題を感じた点（△）

◎【モデル動画のポイント】

- ・対話の仕方
- ・座り方
- ・二人で声に出して読む
- ・交流のタイミング
- ・先に音声で伝え合う→戻ってきて書き出す

ペア交流を行う際に、伝え合うポイントのイメージができる**モデル動画**が効果的だった。

△指導事項を意識して、めあてのゴールを設定するという点が弱かった。

→めあてと振り返りする視点が一致するように、めあて意識が大切である。



学びの自覚

「学ぶことに興味をもつ」「見通しをもつ」「自分で目的意識や課題意識をもつ」「自分でめあてをたてる」「粘り強く取り組む」のように、「**〇〇したい**」という**主体的な学び**を駆使し、その学習活動を繰り返しながら、**対話的な学び**として伝え合う活動を取り入れ、言語活動の充実を図る。達成感を得られるような授業を繰り返し、**学び深める**ことで**学びの自覚**を高めていく。これが**自己評価力**にもつながる。

主体的

対話的

学び深める

主体的に学ぼうとするとき「対話」が生まれる

学び深める中で信頼が生まれ、人間性が磨かれる

中学年分科会

〈单元名〉「運動会協力大作戦」
〈教材名〉4年 クラスみんなで決めるには

効果的だった点（◎）と課題を感じた点（△）

◎【話し合いの進め方のポイント】

- ・「～さん考えと同じで…です」・「～さんとちがって…です」
 - ・「～さんのつけたしで…です」・「～さんの意見に対してどう思うのか」
- 話し合いを進める上で、役わりを明確にし、司会者を中心として話し合いをすすめるための掲示物を見える化したことが効果的だった。

△国語に関するテーマで話し合うとよかった。

△特活の学級会との違いを明確にすること

→自分事として考えていくために、課題設定が重要である



〈单元名〉伝記を読み、自分の生き方について考えよう
〈教材名〉5年「やなせたかしーアンパンマンの勇気」

効果的だった点（◎）と課題を感じた点（△）

◎【話すこと・聞くことの場面設定と対話活動】

- ・ビブリオバトルという読書と関連した活動
- ・紹介文を文章化せず、構成を考えながら話すこと
- ・ペアやグループの人数を変えた5回以上の交流活動

→相手や目的を意識した時に、主体的に聞いてみたいという姿が見られ、話し方も回を重ねるごとにスムーズになっていく様子があった。

△单元構成を「話すこと・聞くこと」で計画する必要がある。

△一人一人が話す時のめあてを具体的にもち、交流の前に練習を重ねることが不十分だった。

→身に付けさせたい力を明確かつ具体的に設定することが大切である。



モデル動画

- ・活動の流れの確認ができる。イメージしやすい。
- ・ポイントの整理・明確化・確認できる。

ペア交流

全体交流

- ・よりよい交流の仕方の学びの共有